

# 青森県南部地方巫女習俗調査報告

## 「きょうもん (経文)」

北川 達男<sup>1)</sup>

The Report on an Investigation into Medeums's Maneners and Customos  
in the Nanbuu Region Aomori. "KYOUMON"

Tatuo KITAKAWA

Key words: イタコ、経文、祭文

### はじめに

イタコとは、「盲目あるいは視力の弱い女性が、主として親や親族の勧めにより将来の生計を得るために、イタコのもとに弟子入りをし巫儀を修得」(『巫女の習俗Ⅱ青森県』「津軽の巫女の習俗」 昭和61年 文化庁文化財保護部)し、ホトケの口寄せの行なう者である。桜井徳太郎(『日本のシャーマニズム 上巻』「第2章 津軽イタコの成巫課程」昭和49年 吉川弘文堂)は、巫儀を修得するための「伝習の内容」として、津軽半島小泊のイタコ長谷川ソワ女の修行を事例に、(1)カミサマを拝む方式(つまり巫儀)、(2)経典の読誦(般若心経・観音経・地藏経など)、(3)和讃・御詠歌(ハナ和讃・地藏・西国三十三番御詠歌など)、(4)ノリト・祭文の暗誦、(5)御祈祷の方法、と挙げた。津軽のイタコの口伝えされた文言・文句の類を、「津軽の巫女の習俗」で「祭文」と総称し、報告をした。

青森県南部(三八地方)のイタコの祭文は、夏堀謹二郎が「まぐ文書」(昭和12年、奥南新報連載)に聞き取りした祭文の類を発表している。小井川潤次郎は、イタコ根城すえ女が弟子に授けた文言の「伝承」を、「祈祷(祝・払い)・呪い」・「口寄せ(託宣)」などを十二の別に条をたて、「いたこの伝承」(昭和28年、八戸郷土研究会)に発表している。

本報告は、南郷村に在住したイタコ林ませ女(大正15年生～平成11年没)が、昭和50年代後半に、八戸市の十代後半の女性に伝授した祭文の類と、「夏堀謹二郎採集」祭文(「まぐ文書」と「小井川潤次郎採集」(イタコ根城すえ女が弟子に授けた文言の「伝承」)とを、対照させ呈示した。

### 調査報告

林ませ女は、教授する文言の類を「キョウモン(経文)」と称し、「サイモン(祭文)」と云う語は用いなかったようである。

林ませ女の師匠(津軽・南部とも、「師匠」という言葉を用いたかは疑問であるが、関係を示す語として表記する。)は、八戸在の石橋すゑ女。石橋すゑ女の師匠は川口キセ女。小井川潤次郎論文の根城すえ女は、明治36年に52歳の川口キセ女に弟子入りをしている。川口キセ女の師匠は、鳥谷某女である。根城すえ女の妹弟子は石橋すゑ女で、その弟子が林ませ女である。

林ませ女は、石川純一郎(1974)の報告に拠ると、「三戸郡南郷村中野在住」。大正15年に名川町森越に生まれ、幼少期から徐々に目を悪くし、16歳のとき八戸市のイタコ石橋すゑ女に弟子入りした。

『住込みで、朝と晩の三十分ずつ習っては、別の部屋で独りで練習した。・・・伝授は般若心経から行われた。昔は門付けが盛んで、えびす大事から入るのを常道とされていたけれども、師匠は「これからは、貰いに行くことねえだから」といって、えびすを省略した。心経についてシャクジョウ(錫杖)経、神寄せ、オシラホロキの方法、そして地獄探し、あげおろし、××揃い、大磐石、国がきなどと習い覚えた。そして、明けて17才の春にはダイジュルシの行をすることになった。・・・ダイジュルシの行は、師匠の家でやった。朝昼晩の1日3度、井戸端でもって「ナモ一不動妙 ナモ一勢至オン菩薩」と唱えながら33回水を浴びて垢離をとった。1週間の行の最終日には、タマシイレにかかった。祈祷したあと師匠の法によって魂を入れられた。

1年の巫業は正月のオシラボロキに始まる。旧正月の2日から25日頃までに10軒ほど遊ばせて回る。オシラボロキは春祈祷の中の1つとして行われるものであり、遊ばせたあと世の中を占ったり、呪ったりする。旧暦2月いっぱいには神寄せをする。

なお、八戸市において出雲大社教の講習会が開かれた折に受講し、昭和40年に権少講義に補せられている。

林ませ女が、弟子に伝えた経文の類に、「さむらいの神降し」とある。小井川潤次郎採集の中に「坊さま」があり、

1) 青森県立郷土館 研究員(〒030-0802 青森市本町二丁目8-14)

「盲人を降ろす時によんだ」と解説している。「さむらいの神降し」もサムライを口寄せするときの「ホトケヨビ」であろう。林マセ女の活動時期に需要があり、創作されたものとは考えにくく、林マセ女が石橋スエ女から、師匠川口キセ女から、川口キセ女は「高館いだこ」鳥谷某女から、代々伝わり習ったものと推察される。川口キセ女は、明治36年に52才であることから、15才に鳥谷某女についたとすると、明治を上り江戸時代になる。「さむらいをおろす法」があることを林マセ女が伝えた数々の文言は、江戸時代までさかのぼれると解釈できる可能性のある伝承と考えられる。

根城すえ女と林ませ女の師匠石橋スエ女とは、師匠を同じくする相弟子であるが、小井川潤次郎採集の根城すえ女と林ませ女の経文に差異があり、同じ名称の経文で、冒頭から末尾まで違うものがある。林ませ女は「出雲大社教 権少講義」、根城すえ女は「尼」（八戸市光竜寺）であり、それらの影響があるのかもしれない。

#### 引用文献

- 文化庁文化財保護部（1986）津軽の巫女の習俗，巫女の習俗Ⅱ，青森県。  
桜井徳太郎（1974）津軽イタコの成巫過程，日本のシャーマニズム 上巻，吉川弘文堂。  
夏堀謹二郎（1937）「まぐ文書」，奥南新報  
小井川潤次郎（1953）いたこの伝承，八戸郷土研究会。  
石川純一郎（1974）口寄せ巫女の伝承—八戸市周辺の場合—，國學院大學日本文化研究所紀要，（34）：73-104。

表1 経文表

夏堀謹二郎採集	小井川潤次郎採集	番号	イタコ林ませ女伝授経文	備考
さごだて(一)	一、えびす大事 第一 えびす			
さごだて(二)	一、えびす大事 第二 九條錫杖			
大國がき	一、えびす大事 第三 佛説地神経			
小國がき	一、えびす大事 第四 心経			
岩戸開	一、えびす大事 第五 ヤマブシ(山伏) 「ほとけさまで山伏をおろすとき」			
正月しよ	一、えびす大事 第六 あげおろし 一 和尚さま			
この殿の	一、えびす大事 第六 あげおろし 二 尼さま			
この殿の内裡のうち	一、えびす大事 第六 あげおろし 三 神明さま			
ゑべす	一、えびす大事 第六 あげおろし 四 八幡さま			
きよめ()	一、えびす大事 第六 あげおろし 五 十和田さま			
歌ぐら 尼様	一、えびす大事 第六 あげおろし 六 山の神さま			
歌ぐら 山伏	一、えびす大事 第六 あげおろし 七 えびす・大黒			
歌ぐら ぼさま	一、えびす大事 第六 あげおろし 八 すゑ錫杖			

夏堀謹二郎採集	小井川潤次郎採集	番号	イタコ林ませ女伝授経文	備	考
歌ぐら 鍛冶	一、えびす大事 第六 あげおろし 九 そうでんさま(蒼前)				
歌ぐら和尚様	一、えびす大事 第六 あげおろし 十 権現さま				
みぢはじまり	一、えびす大事 第六 あげおろし 一一 金毘羅様				
さごだて	一、えびす大事 第六 あげおろし 一二 守り本尊				
大國がき	一、えびす大事 第六 あげおろし 一三 和尚さま				
岩戸開き(七神楽)	一、えびす大事 第六 あげおろし 一四 和尚さま				
岩戸開き(十二神楽)	二、口寄大事 第七 神寄せ				
年びらき	二、口寄大事 第八 地獄さがし				
急べす	二、口寄大事 第九 極楽				
急べす(二)	二、口寄大事 第九 極楽 〇 坊さま				
人間揃へ	二、口寄大事 第一〇 神送り 一「〇」(神送り)				
神よせ	二、口寄大事 第一〇 神送り 二 潔め				
神おくり(・きよめ)	二、口寄大事 第一〇 神送り 三「〇」(「この殿の・・・」)				
歌ぐら 大工	第一一 まじなひ 一 お撒供だて				

夏堀謹二郎採集	小井川潤次郎採集	番号	イタコ林ませせ女伝授経文	備	考
歌ぐら 山の神	第一 まじなひ 三 する錫杖				
地獄探し	第一 まじなひ 三 ○(月揃え前読み)				
佛おくり(・せがき)	第一 まじなひ 四 月揃				
佛よせ	第一 まじなひ 四 日揃				
春祈禱	第一 まじなひ 五 大国書				
月揃い	第一 まじなひ 六 小国書				
日揃い	第一 まじなひ 七 しんぎょう				
人間揃へ	第一 まじなひ 八 水祭文				
(観音経のひけん)	第一 まじなひ 九 夢まじなひ				
	第一 まじなひ 十 人間揃ひ				
	第一 まじなひ 一一 虫まじなひ				
	第一 まじなひ 一二 観音経秘鍵				
	第一 まじなひ 一三 荒神経				
	第一 まじなひ 一四 佛説牛頭天王経				
	第一 まじなひ 一五 大般若経				
	第一 まじなひ 一六 佛説聖不動経				
	第一 祓い 一 天狗				
	第一 祓ひ 二 六三の祓ひ				

夏 堀 謹 二 郎 採 集	小 井 川 潤 次 郎 採 集	番 号	イ タ コ 林 ま せ 女 伝 授 経 文	備 考
	第一 祓心 三十二支祓心			
	第一三 春祈禱 一 敷地褒め			
	第一三 春祈禱 二 家褒め			
	第一三 春祈禱 三 岩戸開			
	第一三 春祈禱 四 十二せきしよ(節季揃)			
	第一三 春祈禱 五 この殿の			
	第一三 春祈禱 六 おしら祭文 萬能長者物語			
	一、えびす大事 第二 九條錫杖	1	しやくじようき	錫杖き
	二、口寄大事 第七 神寄せ	2	神寄せ 口よせの時	
	二、口寄大事 第一〇 神送り 一〇(神送り)	3	神を送る時によむ	
	一、えびす大事 第六 あげおろし 三 神明さま	4	内神さまの上げおろし	神明さまが内神様の場合
		5	さむらいの神落ろし	
	一、えびす大事 第六 あげおろし (4)八幡さま	6	八幡様の神おろし	
		7	大工の上げ落ろし	
	一、えびす大事 第六 あげおろし (5)十和田さま	8	十和田様の上げ落ろし	
	一、えびす大事 第六 あげおろし (6)山の神さま	9	山の神の上げおろし	

夏堀謹二郎採集	小井川潤次郎採集	番号	イタコ林ませ女伝授経文	備考
	二、口寄大事 第八 地獄さがし	10:	地獄探し	
	二、口寄大事 第七 極楽	11:	仏様の上げ落ろし	
		12:	送る時 (仏様の上げ落ろし)	
		13:	子どもの葬式	
	第一三 春祈禱 四十二せきしよ(節季揃)	14:	はるごと	春祈禱
	第一三 春祈禱 六 おしら祭文 萬能長者物語	15:	おしらほろぎ	
		16:	他の人に占いする時の神おろし	
	二、口寄大事 第八 地獄さがし	17:	地獄探しの前によむ	
	二、口寄大事 第八 地獄さがし	18:	(地獄探し)送る時	
	第一一 まじなひ 一 お撒供だて	19:	まじない	
	第一一 まじなひ 四月揃	20:	月ぞろい	
	第一一 まじなひ 四日揃	21:	日ぞろい	
		22:	ところのうち	
	第一一 まじなひ 十人間揃ひ	23:	にんげんぞろい	
		24:	いばさゆわいおゆど申す	
	第一一 まじなひ 七 しんぎよう	25:	しんぎようまか 虫まじない	
	第一一 まじなひ 一五 大般若経	26:	だいほんにや	
	第一一 まじなひ 一三 荒神経		ちまつない	
	第一一 まじなひ 六 小国書	27:	ふるいけんぞく くにじがき	
		28:	頭のまじない	

夏堀謹二郎採集	小井川潤次郎採集	番号	イタコ林ませ女伝授経文	備考
	第一一 まじなひ 一二 観音経秘鍵	29	観音様を呼んだ時又まじない	
		30	てんしよじょう	
		31	さわりものはらいごと	(1 げよどあただば…)
		32		(1 まいおまわるわ こんがら童子…)
		33		(1 たらた一かんまん…)
		34		(1 あら神やっそだつわ…)
		35		(1 ましてびよぎに…)
		36		(1 ふくはる一ぜんやくわ…)
		37		(1 と一ぼ一つるぎなんぼ…)
		38	夢つがい	
		39	便所をうめる時	
		40		(1 やましろの国おだき…)
		41		(一番には寺下観音様まらせたも…)
		42	六根清浄大祓	
		43	不動そん祈り経	
		44	いっぺんどぐさ	
		45	人間ぞろいの次(別に書いておく)	
		46		西天 とぶ…
		47	別に書いておく(夢つがいの次)	
	第一一 まじなひ 一一 虫まじない	48	子供の虫まじない	
		49	目のまじない	
		50	菌のまじない	天じゆくのごにかわらぬ
		51	菌のまじない	天じゆくいと柳虫
		52	やけどのまじない	池の大じやわ
		53	本ごと やけどのまじない	
		54	馬のまじない	
		55	きつね落とし	
	第一二 祓ひ 二 六三の祓ひ	56	六三祈り やく祈り	
		57	六三祈り(作法)	
		58	へびが出てこないまじない	



夏堀謹二郎採集	小井川潤次郎採集	番号	イタコ林ませせ女伝授経文	備考
		59	水ごりの時におしえるもの	
		60	まじない	
		61	神つかみ	
		62	仏をもどす時	
		63	いのりをもどす時	
		64	きつねおとし	
		65	道をとめる	
		66	神様を送くる時	
		67	腹がいたい時	
		68	人のうらみ きつね落としの時	
		69	みずごり	
		70	子供	
		71	自動車の扱	
		72	とりいをはらう時に読む	
		73	新しい家を祈う時	
		74	目のまじない	
		75	虫まじない	
		76	虫まじない	
		77	井戸	
		78	年越の祭	
		79	夢がいがい	
		80	目のまじない	
		81	目のまじない	
		82	やけどのまじない	
		83	百體清浄	
		84	口よせ	
		85	仏様	
		86	いみ祈り	
		87	新宅祭の前 家を祈う時という者	
		88	神拝詞の時によむ	
		89	春ぎどの時	
		90	結婚式	
		91	じんまつり	
童の佛をよぶ時				
齢若き佛をよぶ時				

夏堀謹二郎採集	小井川潤次郎採集	番号	イタコ林ませ女伝授経文	備考
		92	1回も家つをたてたときがないとき	
		93	じしん祭	
		94	口よせ	
		95	仏様	
		96	馬のまじない	
		97	おしら様で背中を祈う時	
		98	春ざと	
		99	はつけをおく詞	
		100	ハツケの詞	
		101	いみ祈い	
		102	口よせ 恐れ山	
		239	事故で死んだ人 大人	
		240	子供	
		242	未婚の人 女	
		244	戦争で死んだ人	
		245	陸軍	
		246	戦争で死んだ人	
		247	50歳で死んだ人	
		248	事故死	
		249	80歳で死んだ人	
		250	水子を呼ぶ時 ~15歳まで	
		251	お産で死んだ人	
		252	水子	
		253	若くて死んだ人	
		254	16-19歳 (女) 事故	
		256	あとざ 子宮のおちないまじない	
		257	いたごをおろす時	
		258	みよそうじゅう	
		261	妙でやる時	
		262	ぬさではらう時	